



家の中のどんなところが危ない？

～1、2歳児がいる家の中の安全づくり～

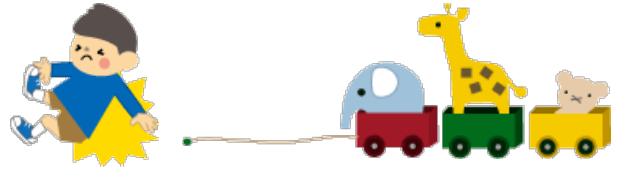


家の中で「危ないからそっちにいっちゃダメ！」「危ないからそれ触っちゃダメ！」という言葉子どもにかけていませんか？子どもの事故の大部分は大人が気をつけることで防げます。事故予防のために家の中を整え、のびのびと子育てをしていきましょう！



1 子どもが遊んでいる周りにつまずきやすい物や段差がないか確認

子どもは遊ぶときに足元をあまり見ていません。ちょっとした段差に気付かず転倒することもあるため、部屋の中を整理整頓しておきましょう。



2 階段や玄関など段差のある場所に子どもが一人でいかないよう注意

転倒の危険性のある場所には柵を作ったりドアを閉めたりすることで子どもが入らないようにしましょう。買い物カートやベビーカーから立ち上がって転倒することもあるので目を離さないで。



3 たばこ、医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かない場所に置く

子どもは大人が使っている物に興味を示します。誤飲を防ぐため、扉の閉まる棚の中などに保管するようにしましょう。公園でも、たばこの吸い殻が落ちていないか確認してから遊びましょう。

4 熱い鍋、アイロン、ストーブやヒーターを子どもが触れる状態にしない

熱い鍋やアイロンは温度を冷ます際にも子どもの手が届かない場所に置きましょう。ストーブやヒーターは安全柵で囲い触れないようにしておきましょう。



入浴後は浴槽のお湯を抜き、浴室に子どもだけで入れないようにする

子どもは浴槽の外にいても浴槽をよじ登って中に入ることがあります。溺れたり、転落したりするため注意が必要です。また、お風呂の蓋はたわみにくいしっかりしたものを選びましょう。

お出かけの際は

車の乗り降りは「子どもを先に乗せる」「子どもを後に降ろす」



子どもが前後にいることに気付かず車を発進させたり車庫入れをしたりして、子どもをひく事故が起っています。日ごろから子どもに車の周りでは遊ばないように教えましょう。

子どもを自転車の補助イスに乗せたまま手を離さない、そばを離れない

子どもを補助イスに乗せたまま手を離すと、自転車ごと転倒することがあります。急ブレーキをかけた際に子どもが飛び出さないように安全ベルトも使用しましょう。



枚方市保健センターでは事故予防ルームの展示を行っています



家の中で注意したい場所や、環境づくりのポイントを紹介しています。
事故予防展示ルームについてのお問い合わせは、保健センターまで。

